

# 九州教学研究所

## 2018年度公開講座



—光明号本尊—出雲路派毫摂寺蔵

### 講題

『無量寿経論』『大乘起信論』研究の現在と  
『大乘非仏説をこえて』—浄土真宗との関わりを中心に—

講師 大竹 晋 師 (仏典翻訳家)

日時 2019年4月4日(木) 15~18時  
4月5日(金) 9~12時

会場 真宗大谷派 久留米教務所大谷会館 大講堂  
久留米市西町 540-1 TEL0942-32-3056

### 参考資料

- ・『元魏漢訳ヴァスバンドゥ 釈経論群の研究』(大蔵出版)
- ・『大乘起信論成立問題の研究』(国書刊行会)

「第二部第三章第六節・阿惟越致を信から退かなくなること  
と見なす説」、「正定聚を信から退かなくなる者と見なす説」

- ・『大乘非仏説をこえて』(国書刊行会)

※ご希望のかたには事前に各教区教務所にてコピーを  
配布しておりますので、お問い合わせください。

上の絵像は今日ではあまり馴染みがないかもしれませんが、「光明本尊」といい、蓮如上人が本願寺教団を形成される以前の初期真宗教団では盛んに用いられていた御本尊です。全国の各地に伝わる「光明本尊」ですが、写真は「南無不可思議光如来」の名号から放たれた光明に与るインド、中国の祖師方を写したものです。向って右列側・一番下に描かれているのは天親菩薩の御姿、左列上から4段目に描かれているのは菩提流支三蔵の御姿です。菩提流支三蔵は、真宗においては天親菩薩の『浄土論』を漢訳し、曇鸞大師に伝えられた方ですが、同時に、それ以外にも天親菩薩造の論をいくつか漢訳し、中国に初めて唯識思想を伝えた方でもあります。

今回ご講義いただく大竹晋先生は、『無量寿経論』を始めとする天親菩薩造・菩提流支三蔵訳の論を長く研究され、また近年では学界の大きな謎であった『大乘起信論』成立問題について、菩提流支三蔵の周辺にいた中国人の作と結論する研究をまとめられました。『浄土論』は曇鸞大師に注釈され、『大乘起信論』は善導大師に批判的に摂取され、菩提流支が伝えた仏教は真宗に生きる我々にとって今なお大きなものであり続けています。今回の研修会では、大竹先生に、これまでの『無量寿経論』『大乘起信論』研究や、最新の御著書『大乘非仏説をこえて』にもとづいて、先生のご研究が浄土真宗の教えにどのような意味をもたらすかをお話しいただく予定です。 多数の皆さまのご参加をお待ちしております。